

華麗なる新ブランド車の競演 国産乗用車展示の傾向

新世紀の環境・安全時代にくるまをどう変え、生き残るか、内外自動車メーカーにとっては大きな節目を迎えた。それだけに今回、ショーにかける意気込みは凄まじい。エコカーから遊び車まで新世代カーと称する新ブランド車の華麗なる競演が注目された。



燃料電池車コンセプトカー「FCX」(ホンダ)

まず第一に、一步世界をリードした形の日本の低公害・低燃費技術のコンセプトモデルだが、本命の燃料電池車(FCEV)ではホンダの「FCX」、ダイハツ「MOVE EV-FC」、三菱「MFCV」、マツダ「デミオ FCEV」、さらにトヨタの主要コンポーネンツ展示など、いずれも次世代のあるべき姿を提案している。

また、すでに実用化され、有望市場が見込まれるハイブリッド・システムにしても、トヨタはプリウスに続く新モデル「HV-M4」(ミニバン)を出品したのを始め、ホンダが世界最高の低燃費1リットルあたり35キロを達成した「インサイト」、スバルはタウンカーのハイブリッド車「エルデン・カスタム」、スズキ

も米GMとの協力で開発したガソリン・ハイブリッド・電気モーター3種のパワーユニットが搭載できる「Pu3-コミュタ」、このほか日産・三菱・ダイハツなど、まさにハイブリッドラッシュの感がある。



遊び感覚の「Will Vi」(トヨタ)

さらに低燃費部門では、日産が直噴ディーゼルを搭載、3リットルで100キロは走るといふ「サイパクト」や、三菱も低燃費「SUW」シリーズを出品。一方、低迷する国内市場の需要喚起策として、くるまの持つ楽しさをテーマとした個性的なモデルも豊富に展示されている。遊び感覚ではトヨタの「Will Vi」、ホンダの「不夜城」、それに新世代セダンを提案した日産の「XVL」、マツダの「ネクストアラー」等。またモータースポーツ熱の高揚でスポーツカーも各社軒並みに出品、会場を賑わせている。軽自動車は、需要好調の波に乗って新しい軽自動車の提案や、タウンカーが目白押しだ。



次世代セダン「XVL」(日産)

総じて言えば、各社の伝統あるフルモデルチェンジ車も多く出揃っているが、それより伝統車にこだわらない新ブランド車が主流という感じ。しかもこれらの多くは、ショーでの人気次第では市販されることを前提に作られていることだ。言ってみれば現在のマーケットは買い手市場であり、多様化かつスピーディーに変化するユーザーの趣味・嗜好にどう応えるか、その方向性を見定めたいのが出品各社の本音とでも言えそうである。

20日のプレス来場者数 6,800人

ブランド戦略で個性を強調



フラッグシップカー「SLR」(ダイムラークライスラー)



スポーツモデル「Z8」(BMW)



大馬力スポーツモデル「EB18/4 “ベイロン”」(ブガッティ)

外国車展示の傾向

クルマそのものが性能、デザインの優劣もなく無国籍化してきたことを反映してか、外国車展示ブースで目立つのは自社の伝統、強味をアピール、他との差別化を主張したブランド戦略を前面に打ち出している。

ダイムラークライスラーが「自動車の未来」をテーマに、21世紀に向けてダイナミックに変化する“Big Wave”をイメージした展示スタンドにフラッグシップカーとして大馬力スポーツカーの「SLR」、それに最先端技術の燃料電池車などを出品。BMWはサーキットのグラウンドを模したスタンドの中央にBMWの走りを象徴したスポーツモデル

「Z8」、これは1950年代の伝説のスポーツカー「507」を21世紀向けに進化させたものだという。VWグループも負けずに大馬力スポーツモデルの「ブガッティEB18/4 “ベイロン”」を出品、これをフラッグシップカーとしてアピールしている。変わったところではフィアットが創立100年の伝統を「フィアットギャラリー」で表現。GMはル・マン24時間レース出場をアピール、「LMP」レースカーを出品している。

このほかの展示傾向としては、やはり次世代技術や環境にやさしいコンパクトモデルが多く見られた。GMは日本、アジア市場向けの小型車「YGM-1」、VWのコンパクトセダン「ポーラ」、さらにオベルがCd値0.22というエアロダイナミック・ボディを実現、総重量750キロの軽量コンパクトカーなど、可能な限り環境へのやさしさを追求したモデルがそれだ。



プレスデー2日目の21日、清水環境庁長官が来場、視察された。午前10時前、会場に到着された長官は、石川専務理事の案内で、東・中央・西の各ホールでハイブリッドカーを中心にご覧になられ、最後に電気自動車の試乗会場へ。

ここで自らハンドルを握って電気自動車でもコースを2周。「とても静かですね。セカンドカーにいいですね」と言いながら、車で帰途に。この間30分の駆け足視察だった。

本日ご来場いただきました
VIPの方々(順不同)

環境庁長官 清水 嘉与子様

環境庁 企画調整局長 太田 義武様

環境庁 大気保全局長 廣瀬 省様

イタリア自工会 会長 / OICA 会長 エミリオ・ディ・カミロ様

パリモーターショー広報担当部長 ジャン・ピエール・メルシエ様